

蘭草に似て、狭長にして岐なく香なし、秋後花を開く、また蘭草に似て淡紫色、及び白色のもの有  
略○中されど皇朝の産は其葉對生にて、西土のものは互生なるを異なりとす、

釋名

ひよどりばな蘭品、本草啓蒙、此花鶴の來る頃に、やまどりさう本草、山蘭圖經本草、此草山中  
蘭と名づく、故に山

澤蘭

〔本草和名九〕澤蘭陶景注曰、生澤一名虎蘭、一名龍棗、一名虎蒲、一名蘭澤香、出蘇一名水香、出兼一名

龍求、一名蘭香二名出雜要訣、和名佐波阿良々岐、一名阿加末久佐。

〔倭名類聚抄二十〕澤蘭 陶隱居本草注云、澤蘭一名佐波阿良々木、生澤傍、故以名之、

〔箋注倭名類聚抄十〕按蘭有二訓、一則布知波加麻、蘭草是也、一則阿良良岐、蘭藹草是也、澤蘭生澤

旁、葉似蘭草則當訓佐波布知波加麻、訓佐波阿良良岐者誤、中吳普曰、澤蘭生下地水傍、葉如蘭

二月生、香赤節、四葉相值枝節間、蘇敬曰、澤蘭莖方、節紫色、葉似蘭草而不香、圖經云、根紫黑色、如粟

根、二月生、苗高二三尺、莖青紫色、作四稜、葉生相對、如薄荷、微香、七月開花、帶紫白色、萼通紫色、亦

似薄荷花、此與蘭草大抵相類、但蘭草生水傍、葉光潤、根小紫、五六月盛、而澤蘭生水澤中及下溼地、

葉尖微有毛、不光潤、方莖紫節、七月八月初採、微辛、此爲異耳、

〔多識編二〕澤蘭、左和阿羅羅岐、今案俗稱志、呂禰。

〔重修本草綱目啓蒙九〕澤蘭 サハアラ、ギ式延喜 アカマガサ和名 サハヒヨドリ 一名醒

頭草握靈本草 煎澤草典覽 九晚菜輯耕 小澤蘭集解時 千里吉福州 爛酣月令

山中溪澗或ハ池澤ノ傍ニ生ズ、蘭草及山蘭ニ似テ小ナリ、葉モ亦相似テ狭ク小シ、莖微ク方ニシ

テ毛アリ、苗高サ一二尺秋ニ至テ花ヲ開ク、形亦相似テ小ク、淡紫色、白色ノ二品アリ、古來澤蘭ヲ

シロ子ト訓ズルハ穩ナラズ、シロ子ハ、一名フシグロノコギリサウ、能州ムラタチ、播州アゼコシ、